

# 土地生産性の維持による農業の確立

～次世代へつなげる農業つながる地域～ 活動対象：剣淵町東町南地区（25戸）

## 【概要】

秋まき小麦の生産性向上に必要な栽培技術項目の実践を働きかけた。現地研修会、巡回、FAX等で情報共有し、農業者とともに生育調査を実施した結果、技術項目を実践する農家が増えた。

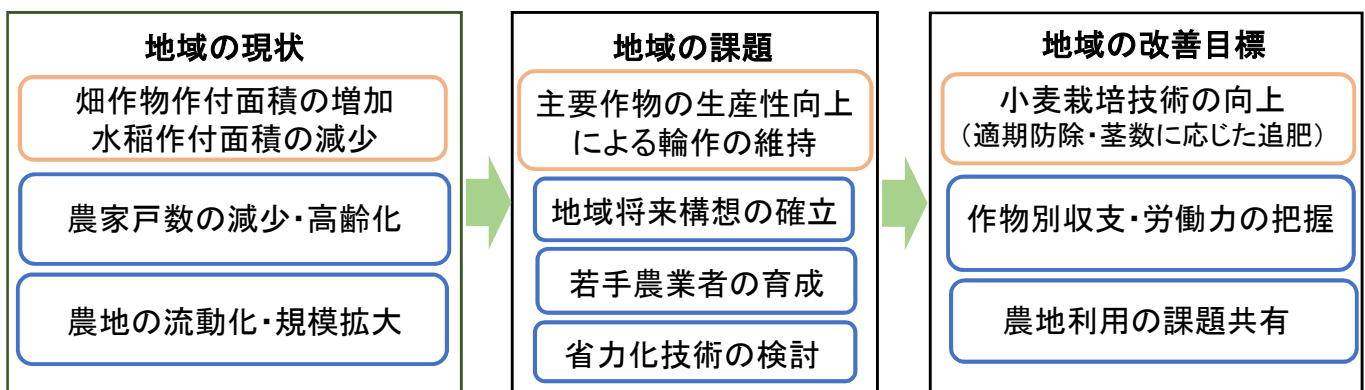
生産性向上に向けた緑肥の導入に向けての学習会を実施し、緑肥の活用方法を共有した。

生産費調査の様式を活用し、各農業者より水稻及び秋まき小麦にかかる収支を集計し、収支に関わる技術内容について整理を行い、懇談会開催時に提示した。

経営移譲直後の若手農業者に対して、将来的な農家生活及び経営を想定した経営シミュレーションの実施を提案した。

地域の将来構想に向けて耕地図に手書き・付箋を使用し所有状況及び農業者間で課題の共有化を行った。水稻面積の維持に向けた省力化技術導入の試験を設置、研修会で共有した結果、1戸で導入が行われた。

## 1 課題の背景



## 2 活動の経過

### ◎主要作物の生産性向上

秋まき小麦の技術改善7項目の実践を提案！  
(目標：6項目実施農家6戸)



起生期の施肥研修会



各ほ場での生育調査



茎数に応じた追肥の呼びかけ



緑肥学習会の実施

### ◎地域将来構想の確立



将来構想の確立に向けシミュレーションの実施を提案（営農Navi.）

経営移譲のあとはどんな農業をしよう？



ほ場の情報を共有

ここは水はけが悪くて...



省力化技術の実証（水稻・高密度は種）

今年は全面積、密播中苗！

### 3 活動の成果

#### ◎主要作物の生産性向上

○ 追肥管理の違いが生育に影響することを実証



成熟期調査

施肥時期を変えただけで  
今年は倒伏しなかったね

施肥によって穂の形が  
こんなに違うとは



重点地区での勉強会

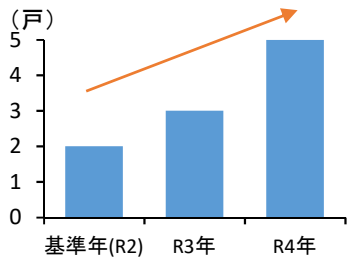


町役場での説明会

JA・役場と協力し、  
町全体にも波及

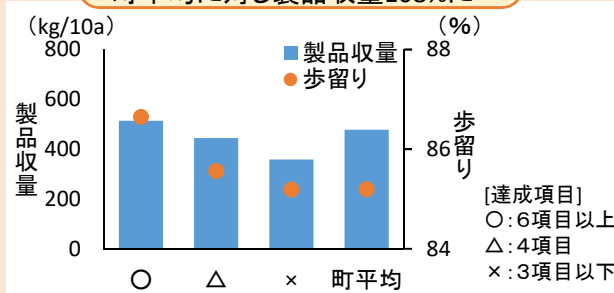
○ 秋まき小麦の技術改善項目の実施(5戸が達成)

技術改善農家数が増加



技術改善項目実施農家数(R2年~R4年)

6項目以上達成農家が高収量！  
町平均に対し製品収量108%に



技術改善農家と収量(R4年)

農業者の意識は...



表 技術実践状況(R2年→R3年→R4年)

葉枯症防除実施戸数		適正施肥実施戸数
止葉期	開花期	
5戸→12戸→12戸	4戸→13戸→13戸	2戸→3戸→9戸

葉枯症防除は継続して実施  
施肥の適正化戸数が増

起生期茎数を見て施肥量を  
調節していなかったら  
倒伏してたかも...

今後は緑肥も  
活用していきたいな！

#### ◎地域将来構想の確立

○ 作物別収支および労働力の把握

経営移譲する農業者へ経営シミュレーションの実施支援



作物別収支の調査

遊び感覚で経営の感覚を  
つかめそうだ

普及センターの支援が  
簿記を始めるきっかけ  
になったよ

作物別収支って  
人によってこんなに違うんだ！

他の品目についても  
調べてみたい

各戸データの比較・共有により技術の検証、  
経営計画(構想)の必要性を共有

○ 農地利用の課題共有

耕地図を見ながら検討(全体検討会開催3回)

大昔はここに水路が  
あって、今もまだ影響が  
あるよ

こんなところに  
飛び地を持っているんだ

この土地欲しいな



○ 省力化技術の検討

(高密度は種現地研修会)

育苗ハウス数の削減

高密度は種栽培  
に切り替えて、精神的  
に楽になった！



### 4 今後の課題

- 秋まき小麦技術改善効果の波及
- 土壌物理性の改善に向けた緑肥導入支援
- 作物別収支の把握及び経営シミュレーションの実施

- 農地利用の課題共有
- 省力的栽培技術の導入